

●「古流名古屋凧」リスト

↓凧に張られている付箋の番号はこちらです。

通番	管理番号	種類	特徴	場所
01	無番	蟬(1)	大凧(四尺)	カウンター横
02	無番	蟬(2)	大凧(四尺)	一般棚上
03	無番	蟬(3)	大凧(四尺)	一般棚上
04	無番	虻(1)	大凧(四尺)	一般棚上
05	無番	虻(2)	大凧(四尺)	一般棚上
06	15	蟬	深沢	入口壁面上
07	1	蟬	菱形五つ星	入口壁面上
08	17	蟬	深沢	入口壁面上
09	20	虻	四つ星	入口壁面上
10	19	虻		入口壁面上
11	13	虻デコ		入口壁面上
12	10	虻デコ		入口壁面上
13	74	蟬	パネル装解説付き	入口壁面上
14	29	虻	パネル装解説付き	入口壁面上
15	27	茶壺	パネル装解説付き	入口壁面上
16	26	扇	パネル装解説付き	入口壁面上
17	30	蟬	パネル装解説付き	入口壁面上
18	12	虻デコ	古型	一般書架上
19	16	蟬デコ		一般書架上
20	47	不破(フワ)	「ウサギサン…」	一般書架上
21	45	不破(フワ)	「兎」	一般書架上
22	31	六角	達磨絵	一般書架上
23	9	蟬	佐々家伝来写(佐々成政の子孫の家に伝わったものの復元)	一般書架上
24	11	蟬	深沢	一般書架上
25	4	虻	禦風連	一般書架上
26	7	虻デコ		一般書架上
27	6	福助ワンワン	【虻の変形】	一般書架上
28	6	蟬ベカ		一般書架上
29	2	蟬		一般書架上
30	5	虻	明治天皇献上写	一般書架上
31	3	蟬	明治天皇献上写	一般書架上
32	26	鳶		一般書架上
33	18	虻碇		一般書架上
34	無番	蟬	館蔵	郷土棚横
35	無番	虻	都築徳入古型写(隠居虻)	郷土棚横
36	57	茶壺		雑誌コーナー壁面
37	61	蜂		雑誌コーナー壁面
38	53	虻		雑誌コーナー壁面
39	54	蜂		雑誌コーナー壁面
40	55	火吹男		雑誌コーナー壁面
41	56	おかめ		雑誌コーナー壁面
42	55	茶壺		雑誌コーナー壁面
43	59	美濃太田	本陣に残った骨組みの復元。種類不明。	コピー机上
44	無番	扇	「君がため…」	新聞架天井吊り
45	14	扇	「せをはやみ…」	入口天井吊り
46	62	扇	「花のいろは…」	カウンター前天井吊り
47	43	不破(フワ)	「ウサギサン…」	児童コーナー掲示板
48	34	不破(フワ)	相撲番付	児童コーナー掲示板
49	32	不破(フワ)	立浪選手引退時の新聞	児童コーナー掲示板横
50	無番	扇	館蔵「春すぎて…」	児童コーナー西壁面上
51	61	菓子型	「起こしもの」型の文様を写したもの	児童コーナー西壁面上
52	47	不破(フワ)	「兎」	児童・幼児の本コーナー
53	60	虻・花吹雪		児童・幼児の本コーナー
54	44	不破(フワ)	「ウサギサン…」	おはなしのへや
55	無番	虻	クジラヒゲ・ベッコウ使用	入口棚ガラスケース
56	無番	ハマグリ凧	蟬	入口棚ガラスケース
57	無番	ハマグリ凧	虻	入口棚ガラスケース
58	無番	ハマグリ凧	彦一	入口棚ガラスケース

●玩具凧リスト

通番	管理番号	種類	特徴	場所
01	42	不破(フワ)	玩具	児童コーナー掲示板
02	36	不破(フワ)	玩具	児童コーナー掲示板
03	33	奴(ヤッコ)	玩具	児童コーナー掲示板横
04	67	不破(フワ)	玩具、42に同じ	児童・幼児の本コーナー
05	68	不破(フワ)	玩具	児童・幼児の本コーナー
06	37	不破(フワ)	玩具、68に同じ	児童・幼児の本コーナー
07	66	不破(フワ)	玩具、42に同じ	おはなしのへや
08	69	不破(フワ)	玩具、68に同じ	おはなしのへや
09	38	扇	玩具	児童コーナー天井吊り
10	41	扇	玩具	児童コーナー天井吊り
11	39	扇	玩具	児童コーナー天井吊り
12	40	扇	玩具	児童コーナー天井吊り
13	65	扇	玩具、39に同じ	児童コーナー天井吊り
14	72	扇	玩具、41に同じ	児童コーナー天井吊り
15	71	扇	玩具、38に同じ	児童コーナー天井吊り
16	73	扇	玩具、41に同じ	児童コーナー天井吊り
17	70	扇	玩具、40に同じ	児童コーナー天井吊り
18	64	ゲイラカイト	玩具、「トランスフォーマーV」	一般雑誌コーナー壁面

●主な名称の説明

●形や骨組み、絵柄による名称

扇：もっとも古い型を伝える。「尾張童遊集」(小寺玉晁、天保2・1831)「凧」の項にも描かれているが、「古流名古屋凧」では左右の風袋が特徴的。

虻：尾張藩士都築徳入が考案したと伝えられる。左右の目がつながっており、体はさまざまな模様、彩色のものがある。

隠居虻—都築徳入の考案した虻凧の写。

デコ—頭(デコ)部分が大きい虻凧。

福助—福助に似た丸みを帯びた虻凧。

蝉：虻と同様、古くから揚げられていた凧。左右の目が独立しており、体には墨ぼかしの縞模様が描かれる。

深沢—凧名人深沢家独自の模様の蝉凧。揚っているところを見てどの家の凧かすぐ判るよう、模様が決まっていた。

蝉、虻が古流名古屋凧で最も基本の形である。床の間に飾る際には蝉・虻一対で飾るのが正式。空に揚ると、ウナリの音がまるで本当の蝉のように「ミーンミーン」と聞こえる。蝉と虻では音が変わるようにウナリも作られている。見事な技術である。

不破：一見普通の柵(角)凧のようだが骨組みが名古屋凧に独特。丈夫で破れにくいところから名がついた(フワ)ものか。弱風でも、とてもよく揚がる。

その他：茶壺、六角、福助、蜂、火吹男、おかめ、菓子型など、多種多様な形がある。

●揚り方による名称

ベカ：ベカベカ身体を揺らしながら揚るところから付いた名。左右の羽が小さい。

ワンワン：ウワンウワンうなりを上げて揚るところから付いた名。

花吹雪：揚げ糸と糸目糸の境に花びら型の和紙を仕込んであり、揚ったところで上空から降らせる趣向の凧。

扇以外の古流名古屋凧が持つ「ウナリ」(風を受けて音を出す弓型の部分)は、本物の弓と同じ造り。竹と木を張り合わせた強靱なものになっている。また、骨組みの中でウナリだけが紐で取り付けられており、いつでもはずせる。四尺(約120cm)の大凧のウナリは、敵襲など火急の折はすぐ取りはずし、弓として用いることもできるという。

●そのほか

彦一：「のし」の形の凧。考案者の名前が付いている。

ハマグリ凧：御座敷遊びに用いる、ハマグリに入る10ミリ～15ミリの極小凧。ベカ、蝉、彦一などがある。造りは通常の大きさの凧と同じ。火鉢の気流で揚げることもできるという。

参考文献：

「古流名古屋凧」(長江栄二郎著、発行、私家版、昭和51)

「東海の凧桜井の凧」(安城市歴史博物館編、発行、企画展図録、平成13)

「名古屋叢書三編」第8巻収録「尾張童遊集」(名古屋市蓬左文庫編、名古屋市教育委員会発行、昭和57)

ほか長江楽風(栄二郎)氏の談話による

文責：阪口泰子(名古屋市楠園書館)